

# 益「続く

## げ9.3%増加

帰属する四半期純利益24億4400万円(39・1%増)。昨年実施した商品価格の改定に伴う適正販売と生産性の向上、コスト削減努力もあり、段階利益はいずれも大幅な増益となった。

第3四半期を終えた時点で各利益実績はすでに通期予想を大きく上回っている状況だが、第4四半期などの経過もより慎重にみていく判断から、予想は据え置いた。

品目別でパックごはん

(米飯)は、近年の働き方や暮らし方、価値観の多様化が進む中で、生活上の食事のあり方についても「タイムパフォーマンズ(タイムパ)志向」が強まったことにより、日常的に家庭内に常備してレンジで手軽においしく食べられる米飯ニーズは堅調に推移した。サトウ食品では、人気お笑いコンビ「オードリー」を起用したテレビCMで、独自の厚釜ガス直火炊きに裏打ちされた「庄トウー飯の売上高は9・3%増

加の191億5800万円となった。

なお同社では先ごろ、最新鋭の専用工場「聖籠ファクトリー(新潟県北蒲原郡聖籠町)で進めていた第2ラインの増設工事が完成し、2月から稼働を開始した。これにより聖籠ファクトリー自体は日産40万食の製造能力に倍増したほか、サトウ食品全体では同123万食(年間4億食)の安定供給体制が整備された。

コロナ禍では内食需要の高まりにより、食品としての価値が見直された

包装餅は、その後は人流の回復もあって市場は縮小傾向となってきた。そうした中でもサトウ食品グループでは、ながもちフィルムなどの独自の強みを生かした販促活動や通年での需要喚起する上で、企画提案を実施したことで堅調に推移。購入商品のダウンサイジング化が進む鏡餅でも、ニーズの変化に合わせて飾れる場所を選ばない「小飾り」タイプを拡充。餅全体の売上高は146億6800万円(同1・7%増)だった。

洗米が不要なオーツ麦粒を使用。プチプチした食感を楽しみながら栄養を摂取できる商品となる。

食品事業の多角化を進める亀田製菓(株)は、グループの(株)マイセンファインフード(福井県鯖江市)が製造するプラントベースフード(PBF)をアピールした。

ミンチはハンバーグや麻婆豆腐、フィレは焼肉や青椒肉絲、スライスは牛丼や肉じゃがなどに向いた設計。牛肉と比べてもタンパク質は1・5倍以上ながら、脂質は28分の1、カロリーは半分以下に抑えている。賞味期限が常温保存で製造から2

# 農薬不使用「百年米」

## 五穀玄米パックやPBFも

### SMTS'24でアピール

東証スタンダード市場上場の(株)きもと(さいたま市中央区)はSMTS 2024で、CSRの環境として立ち上げた「KIMOTOファーム(三重県いなべ市)で栽培したコシヒカリ「実りの百年米」や清酒などを出品した。

KIMOTOファーム

は、高齢化や人口減少などで休耕地となったいなべ市中山間地域の農地を預かり、稲作や野菜、ダリア栽培などを実践している。令和5年産の水稲は田植え以降、化学農薬

白「お米と炊くオートミール粒タイプ(いずれも

150g)を提案した。黒は、ご飯に混ぜる



伊勢神宮外宮奉納品に(きもと)

と色付きが鮮やかになる五穀ブレンド。逆に「白」は色の付かない五穀ミックス。ご飯への配合は好みによるが、たぐさん混ぜてももちりしたおいしさが楽しめる。「オートミール」は浸漬

東北農政局ではこのほか、東北管内で農林水産物・食品の輸出に取り組んでいる優良事業者の中から、今年度の東北農政局長賞の受賞者を決定した。今年度は、ホタテなど海産物輸出の(株)山神(青森市)、リンゴ・サツマイモ輸出の岩手中央農協(岩手県紫波町)とともに、宮城県加美町の酒蔵・(株)田中酒造が受賞している。

### 輸出促進へ東北農政局長賞

## 宮 田中酒造も受賞

日本酒(TANAKA 1789)を豪州・米国のベルギーなど21カ国に輸出している田中酒造は、カナダ出身のアロマスペースリストが考案した日

パックでは、「大豆と玄米のベジミンチ」(130g)、「大豆と玄米のベジフィレ」(100g)、「大豆と玄米のベジスライス」(60g)を展示。長持ちする乾燥タイプの大豆ミートで、お湯で戻すだけでまるで肉のような食感が楽しめる。

ミンチはハンバーグや麻婆豆腐、フィレは焼肉や青椒肉絲、スライスは牛丼や肉じゃがなどに向いた設計。牛肉と比べてもタンパク質は1・5倍以上ながら、脂質は28分の1、カロリーは半分以下に抑えている。賞味期限が常温保存で製造から2

本酒のブレンド手法を用いて海外市場向け日本酒「TANAKA 1789 XCHARTIER」シリーズを開発。

日本酒の製造方法・醸造元の歴史などを商品価値の一部として評価するワイン文化が根づいている国・地域をターゲット

# 大津市パン

## 4年連続減